東日本大震災　MSW 災害支援ニュース

2011 年　5 月　19 日(木)　　第 1 巻（第8 号）

JASWHS 公益社団法人 日本医療社会福祉協会
Japanese Association of Social Workers in Health Services

日本医療社会福祉協会　東京都新宿区住吉町 8-20　四谷ヂンゴビル 2F　(03)5366-1057
災害対策本部直通　(03)3351-5038　災害対策本部専用アドレス dsstsw@jaswhs.or.jp

目次

１．現地・事務所ボランティア募集について（再）
２．現地・事務所ボランティア今後の会議・報告会の予定（再）
３．石巻・現地情報　　宿泊場所として、２LDK の物件を確保しました
４．石巻・現地報告

＜１．現地・事務所ボランティア募集について＞

① ボランティア登録人数

5 月 17 日（火）現在

現地ボランティア　：　113 名

事務所ボランティア：　70 名　　の登録を頂いております。

皆様お忙しい中、お仕事の合間をぬってのご参加で、人員が不足しております。ご協力頂ける方は、日本医療社会福祉協会・災害対策本部（03-3351-5038 または dsstsw@jaswhs.or.jp）

（平日・土・祝　10~17 時）　まで、ご連絡下さい。

※メールでのご連絡の際は、件名に「(現地）または（事務所）ボランティア希望」と記載の上、ご連絡をお願い致します。

②現地ボランティアについて

現地ボランティアは、現在、宮城県石巻市への派遣を行っています。

・ご自分で車の手配（自家用車・レンタカーなどを手配し、運転出来ること）の出来る方、

・日数としては、引き継ぎ等の関係により、前後の移動日を含めず、中 3 日活動出来る方が理想です。

宮城県仙台市での活動は、5 月 6 日をもちまして一旦停止となりました。

③事務所ボランティアについて

活動日程：月～土、祝日　の　10 時～17 時

一日参加だけでなく、午前・午後といったご協力も可能です。

活動内容：主に、災害対策本部としての電話対応や事務処理、現地とのやりとり、現地ボランティア派遣の日程等調整が中心となります。

基本１日４名を目標に、ご参加頂いております。東京・神奈川・千葉・埼玉などはもちろん、関西や北陸など、遠方からもご協力を頂いております。多くの方のご協力をお待ちしております。

日本医療社会福祉協会
〒162－0065　東京都新宿区住吉町８－２０　四谷ヂンゴビル２Ｆ
電話　(03)3351-5038(対策本部)
電子メール　dsstsw@jaswhs.or.jp

＜２．現地・事務所ボランティア　会議・報告会の予定＞

①現地ボランティア　報告会

4 月後半～5 月前半の現地派遣ボランティア経験者と、今後派遣希望の方の現地情報の報告・共有を目的とした、現地報告会が開催予定です。
今後、現地ボランティア参加希望または日程が決定している方や、事務所ボランティアの方も、現地の状況を把握する機会です。是非ご参加ください。

日程：2011 年 5 月 23 日(月)19 時～21 時
場所：日本医療社会福祉協会　会議室

②災害対策本部・事務所ボランティア　オリエンテーション

今後、初めて災害対策本部で活動される方のオリエンテーションを行います。
事務所内での活動内容、災害対策本部の実際などをじっくり知ることが出来ると思います。
また、事務所内での意見交換・情報交換等を行う場としても、ご利用していただければと思います。

※こちらのオリエンテーションにご参加頂かなくても、事務所ボラで活動する事は可能ですが、初日の心構えとして、ご都合が合いましたらご参加頂けると幸いです。

日程：2011 年 6 月 20 日(月)19 時～21 時
場所：日本医療社会福祉協会　会議室

上記の会議は、事前にご連絡は不要です。
当日、日本医療社会福祉協会　会議室までおこしください。

日本医療社会福祉協会
〒162－0065　東京都新宿区住吉町８－２０　四谷ヂンゴビル２Ｆ
電話　(03)3351-5038(対策本部)
電子メール　dsstsw@jaswhs.or.jp

＜３．石巻・現地情報＞

現地災害支援ボランティア参加者へお送りしている書類から、以下現地情報を抜粋して掲載します。

＜活動場所「遊楽館」の情報＞

「遊楽館」周辺は被害が少なく、水道・ガス・電気は使用可能。少し高い山の上にあり、地震には強く綺麗な施設です。館内には、ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ専用携帯、PC2 台、ﾌﾟﾘﾝﾀｰ等の準備がございます。万が一、「遊楽館」に宿泊する事となったとしても、毛布等の用意はあるそうなので、寝袋は不要です。

＜周辺の情報＞

被害の大きかった地域は、被災地は遊楽館から車で 20 分程の場所です。石巻市内の道路はやや不安定ですが概ね通行可能です。

・「石巻イオン」…遊楽館から車で 10～15 分の場所にあり。食料品の購入、ATM の利用、給油・洗車も可能。また店内の飲食店・映画館の他、近隣のファーストフードなど様々な施設が営業を再開しているそうです。

＊自家用車でお出かけになる場合、高速料金が無料になる証明書を発行することができます。
＊ボランティア保険は、当協会で手続きしています。

＜支援内容＞

・個別面接
・個別支援での全国ネットワーク活用
・入居者のデータベース更新（入退所者の更新、進捗状況の作成）
・送迎ボランティアの確認
・ケースカンファレンス
・生活保護課、包括支援センターとの連絡調整
・罹災証明の取得支援
・入所者ニーズの把握
・入所者の自宅への外出支援

等をおこなっています。

＜宿泊場所＞

5 月 23 日以降、２LDK のマンションが宿泊場所として使える事になりました。

宮城県大崎市古川幸町１－６－１８　コンフォート古川　203 号室

JR 東北新幹線　陸羽東線　古川駅より徒歩約９分

＊駐車場１台（原則移動者１台以外は、遊楽館に駐車となります）

＊布団はありますが、シーツ・枕カバー、タオルなどはご持参下さい。

日本医療社会福祉協会
〒162－0065　東京都新宿区住吉町８－２０　四谷ヂンゴビル２Ｆ
電話　(03)3351-5038（対策本部）
電子メール　dsstsw@jaswhs.or.jp

＜４．石巻の現地ボランティア　活動報告＞

現地では日報のたたき台の作成、遊楽館への避難者との面接、一般避難所の遠隔避難希望者との面接および遠隔地避難に関しての情報収集と交渉を行いました。

今回のボランティアへの参加によって、まず数日間でソーシャルワーカーが入れ替わっていくという、リレー形式でのソーシャルワークの継続のあり方と難しさを感じました。面接等から得た情報や個別のニーズに対して、継続した支援を保障する必要があります。現地の動きが刻々と変わる中においての、記録も含めた支援の引き継ぎが大切であると感じました。

また、今回の期間において遠隔地避難の事例に関わる機会があったことに伴い、災害救助法に対する知識や理解の必要性を実感しました。自治体も災害救助法の具体的運用に関しても、いまだあいまいな部分もあるように感じました。二次避難や移送に関しては災害救助法が関わってきます。そのためソーシャルワーカー自身も災害救助法についてある程度の理解が必要であると感じました。具体的な運用に関しては、自治体等への確認が必要ですが、基本的な部分を理解していないと、問い合わせや交渉ができません。その点が不十分な形で現地に出向いたことは、私自身の反省でもあります。

避難者との面接、被災地に足を踏み入れ様子を見ただけでも支援が必要と思うこと山のようにあることを感じさせられます。しかし、その状況においても求められている役割や自分達の立ち位置を確認しながら活動をする必要があると感じました。それは遊楽館における活動についても同じことが言えると思います。多くの支援団体が入っている中で期待されている役割や、日本医療社会福祉協会がどのような立場で石巻市で活動をしているのかということを自分自身が理解しながら活動をしていく必要があると感じます。

今回の震災によって、被災地の自治体には混乱している部分が多くありました。しかし、その中で働き続けている方々も被災者です。震災によってただでさえ過酷な状況にあるにも関わらず、震災によって一変した環境、慣れない状況でも生活を送り、業務が行われています。中には、避難所から仕事に行っている方もいます。被災地の現状を理解し、活動を行う必要があると感じました。

今回のような広域な災害では、津波による被害といっても、各地域によって被災の状況は異なります。それに伴い、自治体の残存機能も異なり、住民が抱えている不安や想い、生活している環境も異なります。ソーシャルワーカーはその現状を感じ取り、把握して活動をしていく必要があると思います。

4 月 20 日～4 月 23 日参加

小笠原　太

日本医療社会福祉協会
〒162－0065　東京都新宿区住吉町８－２０　四谷ヂンゴビル２Ｆ
電話　(03)3351-5038（対策本部）
電子メール　dsstsw@jaswhs.or.jp

2 回目の現地ボランティアを終えて

4 月 22 日～25 日の 2 回目の石巻市遊楽館の現地ボランティアを終えた。支援チームは、複数のボランティアがローテーションを組みながら支援組織を形成している。固定メンバーで行う支援とは異なり、受け入れ側も支援する側も相互理解と相互協力が必要だ。また、日々刻々と変化するニーズへの対応には、支援体制や方法の変化はつきものであるということを現地ボランティアの方々には理解していただく必要があるだろう。

保健医療福祉の専門職ボランティアの努力の結果として、大きな事故が起こることなく避難されている人々の生活は維持できている。ボランティアで構成されている遊楽館の支援体制も絶妙なバランスで整ってきている。石巻市立病院の医師をはじめとした医療職、PCAT チーム、亀田総合病院の医師や MSW の方々、市役所職員、北海道庁からの派遣職員、遊学館の現地に入った多くのボランティアの方々と医療ソーシャルワーカーの連携チームである。皆、石巻の住民の方々を「支え合いたい」という強い気持ちと臨機応変な対応、豊富なアイデアを持ち寄っている。また、専門職としての予見性が、遊楽館の避難者を支えていると実感する。まさしく、専門職集団の使命感と高い専門性が奏でる即興曲である。遊楽館の診療をメインで担当している PCAT の医師からは、「今後はソーシャルワーカーがメインになっていきます。僕たちは、避難されている方々の健康度の維持・増進のために力を注ぎます。よろしくお願いいたします。」とエールが送られており、チームメンバーからは、今後の医療ソーシャルワーカーへの期待も高い。

遊楽館のソーシャルワーク業務は、すべて即興チームで、バトンリレー方式で成り立っている。本来ならば、固定メンバーによる援助が望ましい。担当者が定まらず、利用者の方々や被災地の関係者にはご不便をお掛けしている。現在、協会員の協力は、長くても 1 週間、短い方だと 2 泊～3 泊の滞在である。慣れた頃には帰らなければならないというのが現実だ。ボランティア自身が達成感を得たいところだが、不全感を抱く方も多いだろう。それが、災害ボランティアの特徴かもしれない。もっとやりたい。もっとしなければならないことがあるのではないか。何ができたのだろう・・。これでいいのだろうか etc・・・・。しかし、災害ボランティアは、本人が気付かないところで負荷がかかっている。私の例で言うと、石巻から東京に帰ると、だいぶテンションが高く、疲労感がなかなか取れない。災害ボランティアのストレスマネジメントは非常に重要だと実感する。ボランティアのメンタルヘルスケア体制づくりも優先順位の高いテーマだと思っている。

最後に、事務所ボランティア・協会事務所の方々の多くの配慮で現地ボランティア活動が成り立っていることに改めて感謝申し上げたい。

石巻にも桜の花が咲き、遅い春が訪れた。遊楽館に向かう路には、水仙が咲いている。花は何も語らず、私たちの心を励ましてくれているような気がした。いま、すべきことをしていくのみ・・・。30 日から 3 クール目が始まる・・・。

石巻担当　草水美代子　2011/4/28

日本医療社会福祉協会
〒162－0065　東京都新宿区住吉町８－２０　四谷ヂンゴビル２Ｆ
電話　(03)3351-5038（対策本部）
電子メール　dsstsw@jaswhs.or.jp